

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調増加している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 5 月)	今回 (平成 27 年 8 月)	
個人消費	増加	堅調に増加	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	

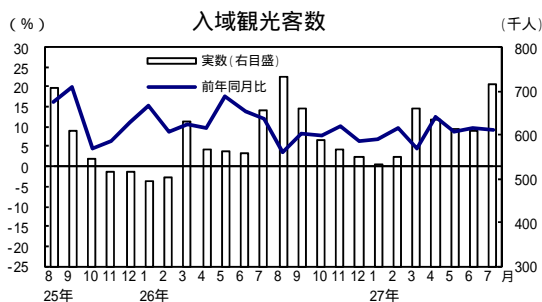
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客については、4月は、LCCを中心とした航空路線の拡充等から前年を上回った。5月は、台風の影響で欠航があったものの、ゴールデンウィーク期間を中心に好調に推移したこと等から、前年を上回った。6月は、LCCを中心に好調に推移したものの、東京及び名古屋方面において旅行商品の販売等が一部伸び悩んだこと等から、前年比微減となった。

外国客については、4月は、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増により、空路・海路共に好調に推移したこと等から、単月の過去最高記録を更新した。5月は、引き続き航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増などにより、前年を上回った。6月は、引き続き航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増により好調に推移し、3か月連続で単月の過去最高記録を更新した。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を上回っている。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	26年10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
入域観光客数	1,700	1,740	1,857	714
(前年比)	8.1	6.9	10.2	9.2
ホテル稼働率	73.9	81.4	77.1	-
(前年差)	3.5	2.4	1.3	-

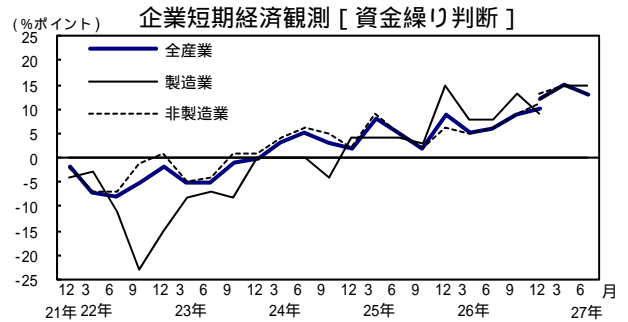
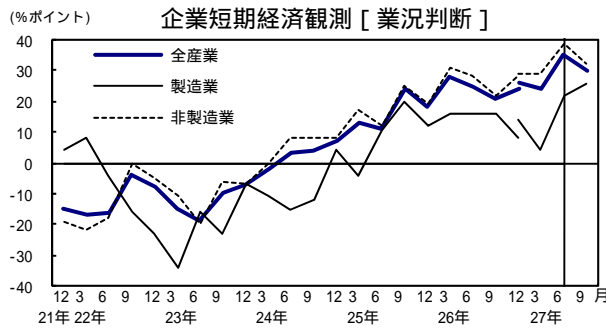
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

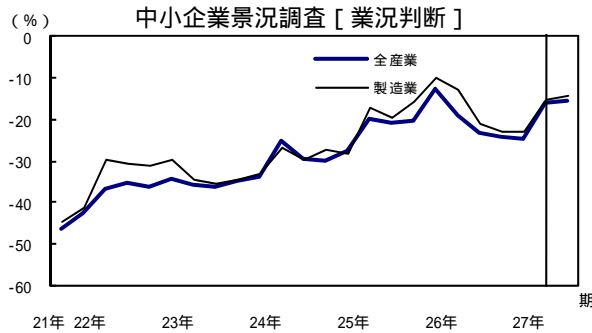
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

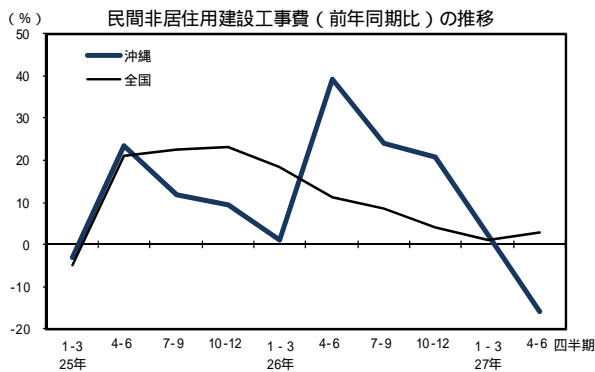


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「今月は週末に2度の台風に見舞われたものの、引き続き観光客の大幅な増加やスーパー関係の好調さが聞かれる(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績	27年度価
全産業	10.2(5.2)	12.2(2.3)
製造業	1.4(1.8)	46.7(14.5)
非製造業	14.0(7.4)	2.3(5.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は堅調に増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.1%増、5月は同0.2%減、6月は同1.2%減となった。

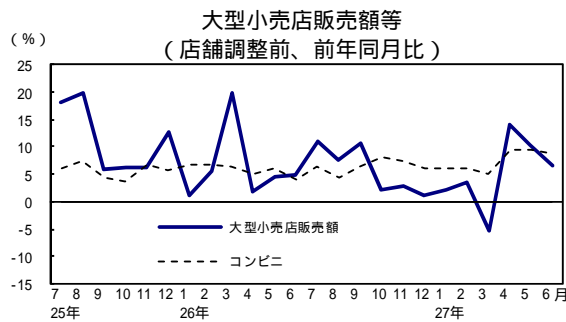
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、4月は新規出店・改装効果に加え、食料品や衣料品などが伸長したこと等から、前年を上回った。5月は催事効果や、食料品や衣料品などの販売が伸長したこと等から、前年を上回った。6月は新催事や改装の効果が継続してみられたことや、食料品や衣料品などの販売が引き続き好調に推移したこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

沖縄地域の家計動向関連DIは、55.0 となり前月より1.3ポイント上昇した。

「民間賃貸アパート、米国人向け戸建賃貸住宅など、建築請負契約の受注が順調に推移している (住宅販売会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

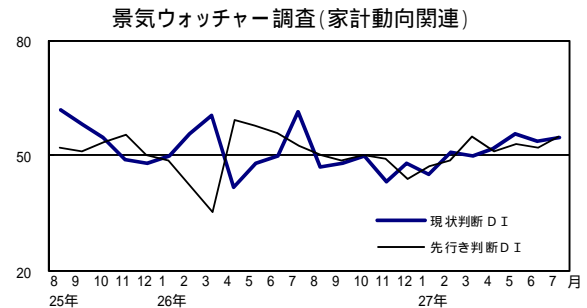
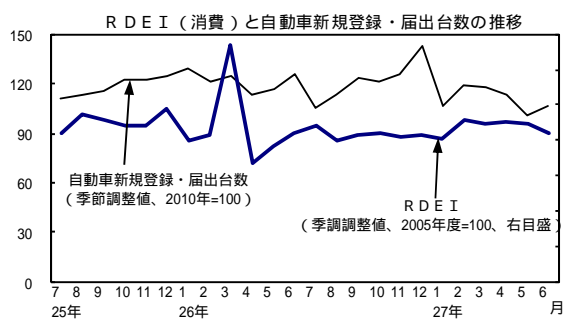


	27年4-6月	27年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.1	0.1	0.2	1.2
大型小売店(*2)	10.1	13.9	10.2	6.5
コンビニ(*2)	9.2	9.4	9.5	8.8
乗用車(*3)	10.1	13.7	13.9	18.6
(季節調整値)(*3)	6.8	11.3	6.1	20.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 大型小売店は経済産業省調べ (店舗調整前)、コンビニは日本銀行(県支店)調べ
前年同期(月)比 (%)

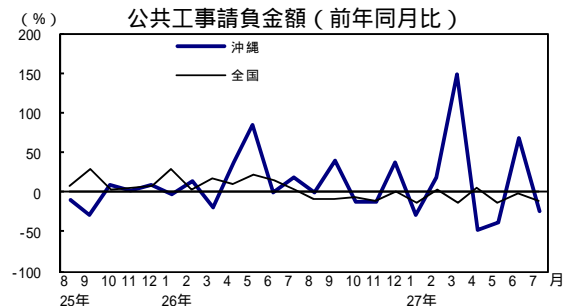
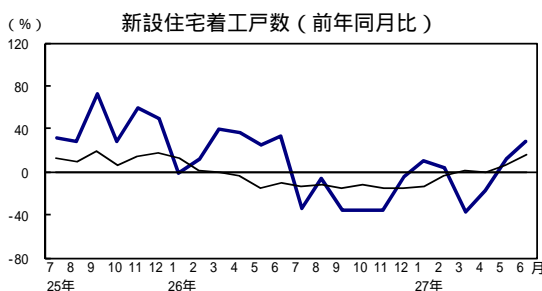
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比) (%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

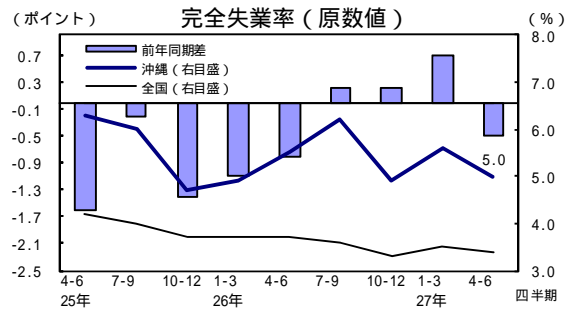
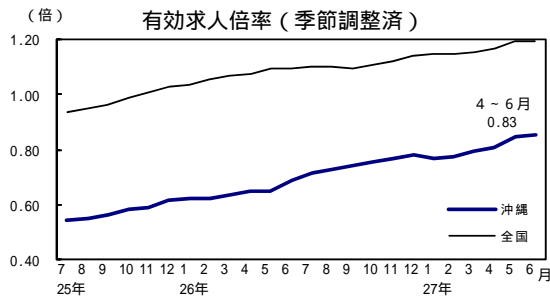


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

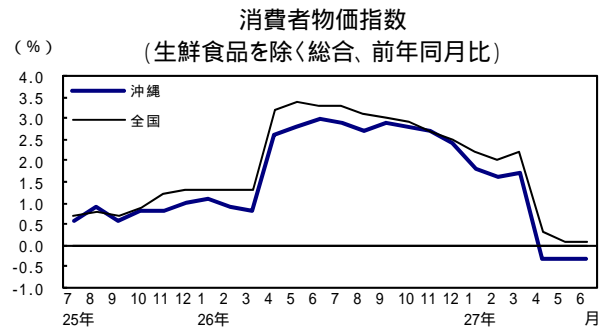
「航空業界などで久しぶりの求人が見受けられる。地域性はともかく、旅行など余暇への消費が伺える (学校[大学])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年7-9月	10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
倒産件数	18	28	22	12	4
(前年比)	30.8	100.0	22.2	14.3	0.0
負債総額	19	21	23	9	17
(前年比)	27.5	76.3	8.9	77.5	366.8



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・中部の大型ショッピングセンターや那覇以外の地域に客が流れると予想していたが、思ったほど変わっていない (衣料品専門店)

<先行き>

・近くに宿泊施設が増加しており、入客増が見込める (コンビニ)

